

# 1. 調査概要

## (1) 調査の目的

港区におけるひきこもりの状態にある区民の実態及びニーズを明らかにし、その支援策に関する基礎資料として活用することを目的として港区内の 60,000 世帯を対象に実施した。

## (2) 調査対象・方法・期間・回収率等

項目	内容
調査対象	令和 5 年 6 月 16 日現在で港区内に登録されている住民基本台帳から無作為に抽出した 60,000 世帯
配布数（有効配布数）	60,000 世帯（57,975）
回収数	14,070 件 <回収数内訳> 【郵送】 7,977 件（56.7%） 【インターネット】 日本語 5,728 件（40.7%） 英語 240 件（1.7%） 中国語 94 件（0.7%） 韓国語 31 件（0.2%）
回収率（有効回収率）	23.5%（24.3%）
調査方法	調査票を郵送配布し、無記名による郵送回答またはインターネット回答により回収。インターネット回答は、英語、中国語、韓国語での回答が可能。 調査期間中に、対象者全員にお礼状兼回答協力依頼の手紙を 1 回送付。
調査期間	令和 5 年 7 月 14 日（金）～令和 5 年 8 月 4 日（金）
調査実施機関	株式会社 創建

## (3) 調査の精度

標本誤差は、以下の式で得られ、比率算出の基数（n=回答者数）、回答の比率（p）によって誤差幅が異なる（下表は p=0.5 の場合）。

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

N : 母集団（港区の全世帯数）  
n : サンプル数（有効回答数）  
p : 回答比率（1つの選択肢に対して得られた回答者の割合）  
1.96 : 信頼率 95%と設定した場合の定数（調査の母集団に同じ設問をしても、統計学的には 95%の確率で同じ回答が得られるというもの）

回答比率 (p) 回答者数 (n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
20,000	±0.34%	±0.45%	±0.52%	±0.55%	±0.57%
15,000	±0.42%	±0.55%	±0.64%	±0.68%	±0.69%
14,070	±0.43%	±0.58%	±0.66%	±0.71%	±0.72%
10,000	±0.54%	±0.72%	±0.82%	±0.88%	±0.89%
5,000	±0.80%	±1.06%	±1.22%	±1.30%	±1.33%

#### 【表の見方】

全体（母集団）の中から一部を抽出する標本調査では、全体を対象に行った調査（全数調査）と比べて調査結果に差が生じることがあり、標本誤差とは、そのような誤差のことを指す。標本誤差は標本の抽出方法や標本数によって異なるが、計算することが可能であり、その計算式を今回の調査にあてはめて整理した。

今回の調査は、回答件数が14,070件であり、ある設問の回答比率が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±0.72%以内（49.28%～50.72%）であるとみることができる。

#### （4）本報告書に関する留意点

- ・無記名方式による調査のため、回答者の特定はできない（但し、問56で個人情報を記入した回答を除く）。
- ・比率は全て百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。このため、百分率の合計が100.0%にならないことがある。
- ・基数となる実数は「N」として掲載し、各グラフの比率はNを母数とした割合を示している。
- ・単数回答は「○は1つだけ」、複数回答は「○はいくつでも」と表示している。複数回答の場合は、合計が100.0%を上回ることがある。
- ・「その他」等の記述式を含む設問の回答は、上位3位までの回答内容を件数とともに記載している。また、一人が複数の内容を回答している場合は、各内容を1件として算出している。なお、回答件数が少数の場合はすべて掲載している。
- ・クロス集計は縦軸を「表側」、横軸を「表頭」と表示している。  
また回答件数（「度数」と表示）を上段、割合（「%」と表示）を下段に示している。
- ・クロス集計は、表側、表頭の両方の設問に回答した人のみで集計している。そのため、回答者数の合計は、それぞれの設問の回答者数とは一致しない集計がある。
- ・クロス集計票では、表側に対する割合を算出して記載している。上位3位までの回答を着色している（1位：■、2位：■、3位：■）が、全体の回答数が10人未満の場合は、いずれも着色していない。
- ・分析軸の回答者が50人未満の場合は、回答者些少のため参考値とする。
- ・郵送回答とインターネット回答の重複回答がある場合は、郵送回答を有効回答とした。

## 2. 「ひきこもり」の定義

本報告書では、内閣府「子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」における「ひきこもり」の定義を参考にしながら対象者を抽出したところ、158世帯でひきこもりの該当者が存在するという結果となった。

内閣府の調査項目	港区調査の設問と選択肢
外出頻度が次のいずれかを選択 1 趣味の用事のみときだけ外出する 2 近所のコンビニなどには出かける 3 自室からは出るが、家からは出ない 4 自室からほとんど出ない	<p><b>(問 27・問 47) 現在の外出頻度はどのくらいですか？</b></p> <p>6 普段は自宅にいるが、自分の趣味に関する用事の時に週1回程度外出する</p> <p>7 普段は自宅にいるが、近所のコンビニやスーパー等には出かける</p> <p>8 同居人以外の方が自宅に居ても居なくても自室からは出るが、自宅からは出ない</p> <p>9 同居人以外の方が自宅にいない時は自室から出るが、自宅からは出ない</p> <p>10 自室からほとんど出ない</p>
	<p>準ひきこもり</p> <p>狭義のひきこもり</p>

かつ

現在の状態が「6か月以上」と回答	<p><b>(問 11) 問 8（ひきこもり）の状態の期間はどのくらいですか？</b></p> <p>1 6か月～1年未満    2 1年～2年未満    3 2年～3年未満 4 3年～5年未満    5 5年～7年未満    6 7年～10年未満 7 10年～15年未満    8 15年～20年未満    9 20年～25年未満 10 25年～30年未満    11 30年以上</p>
------------------	---

かつ

次の類型1～3のいずれにも該当しない者	<p><b>【類型1】</b> 現在の状態になった主な理由が、「統合失調症」又は身体的病気の病名を記入</p>	<p><b>(問 18・問 41) 問 8の状態になったきっかけは何ですか？</b></p> <p>以下を選択し、かつ「統合失調症」又は身体的病気の病名を記入</p> <p>9 病気 15 その他</p>
	<p><b>【類型2】</b> 最近6か月間に、家族以外の人と「よく会話をした」又は「ときどき会話をした」を選択</p>	<p><b>(問 35・問 50) 交流状況について教えてください。</b></p> <p>2 趣味や遊びのために人と会うことはある 4 民間を含む相談窓口・支援機関との交流がある 7 通院で医師等と会話をする</p>
	<p><b>【類型2-①】</b> 「妊娠したこと」「介護・看護を担うことになったこと」「その他」のうち、出産・育児をしている旨を記入</p>	<p><b>(問 18・問 41) 問 8の状態になったきっかけは何ですか？</b></p> <p>10 妊娠したこと 13 介護・看護を担うことになったこと 12 育児に専念することになったこと 15 その他を選択し、出産・育児をしている旨を記入</p>
	<p><b>【類型2-②】</b> 普段ご自宅にいるときは、どんなことに時間を使っているかの問いの回答が「家事をする」「育児をする」「介護・看護をする」のいずれか</p>	<p><b>(問 33・問 49) 自宅でよくしていることをご回答ください。</b></p> <p>9 家事をする 10 育児をする 11 介護・看護をする</p>
	<p><b>【類型2-③】</b> 現在の仕事が「会社などの役員」、「自営業・自由業」、「家族従業者・内職」を選択</p>	<p><b>(問 6・問 39) 現在の就学・就労状況をお答えください。</b></p> <p>「3 勤めている（自営業・フリーランス）」を選択</p>
<p><b>【類型3】</b> 現在の仕事が「会社などの役員」、「自営業・自由業」、「家族従業者・内職」を選択</p>	<p><b>(問 18・問 41) 問 8の状態になったきっかけは何ですか？</b></p> <p>「15 その他（）」を選択し、自宅で仕事をしている旨を回答</p>	